

てんかんに関するよくある質問

《質問》

てんかんは、遺伝するのですか。

《回答》

遺伝的なけいれんしやすさ（素質）が関連すると考えられている特発性てんかんと大脳が傷つくことによって起こる症候性てんかんがありますが、通常これら二つの要素が複雑に関係しています。遺伝によってのみ発症するものではありません。

《質問》

てんかんの人は、自動車の免許を取ることはできないのですか。

《回答》

2～5年間発作を起こしていない、医師の許可診断書があるなど一定の要件を備えれば、免許を取得することは可能です。

※詳しくは、警察庁ホームページ（「一定の病気に係る免許の可否等の運用基準」の「2 てんかん」）をご確認ください。

（https://www.npa.go.jp/policies/application/license_renewal/pdf/list3.pdf）

《質問》

てんかんは、突然発症することがあるのですか。

《回答》

発病する年齢は3歳以下が最も多く、半数が何の原因も思い当たらないまま突然発症します。60歳を超えた高齢者になると脳血管障害などを原因とするてんかんの発病が増加します。

《質問》

てんかんは、一度発症すると生涯治癒しないのですか。

《回答》

小児期に発症するてんかんは7割から8割が治癒（お薬をやめても再発しない）します。一方、成人てんかんでは、薬をやめると再発する人の率が少し高くなりますが、治癒する人も半数はいます。

また、高齢者の場合には脳障害が高度でなければ、少量の薬で発作抑制に至る患者さんも多いと言われています。

《岡山県てんかん診療拠点機関 問合せ先》

岡山大学病院てんかんセンター
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号
電話 086-235-7744
URL <http://epilepsy.hospital.okayama-u.ac.jp/>
※総合患者支援センターが相談窓口となります。



© 岡山県「ももっち・うらっち」

《問合せ先》

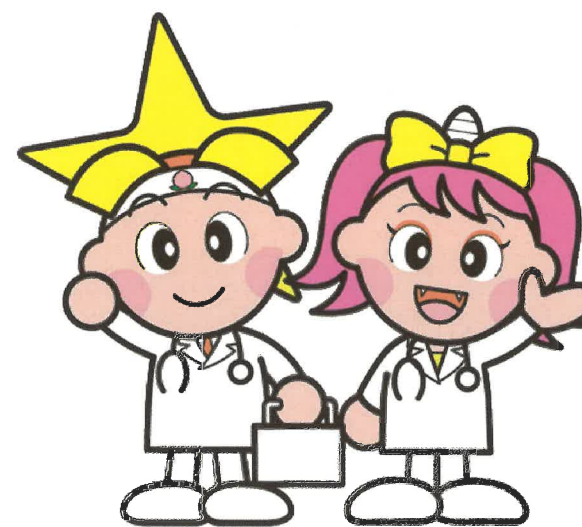
岡山県保健福祉部健康推進課
〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号
電話 086-226-7330 FAX 086-225-7283

R70

古紙/バブル配合率70%再生紙を使用

2018年9月発行

てんかんに理解を深めましょう



© 岡山県「ももっち・うらっち」

岡山県てんかん治療医療連携協議会

てんかんは身近な病気です

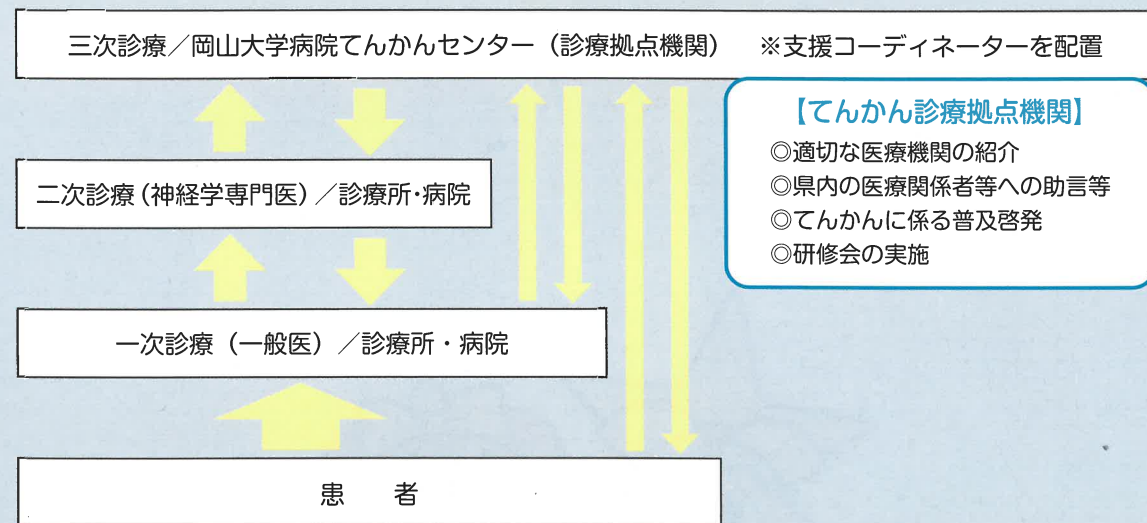
てんかんで苦しんでいる人は、全国で100万人以上いると言われています。

てんかんは、乳幼児から高齢者まで幅広くみられる身近な病気です。外見ではわかりにくいので、理解されずに苦しんでいる方やご家族もいます。

このリーフレットは、県民の方に少しでもてんかんに対する理解を深めていただくために作成したものです。

岡山大学病院を県のてんかん診療拠点機関に指定！

岡山県では、てんかんの方を専門的な医療につなげるための体制を構築して、専門的な相談支援、他の医療機関、自治体等や患者の家族との連携・調整を図るほか、関係機関の医師等に対し指導・助言を行うなど、てんかんの方の適切な医療受診とともにてんかんに関する普及啓発を行うため、平成27年11月に岡山大学病院を県内において専門的にてんかん治療を行う診療拠点機関に指定しました。



てんかんってどんな病気？

発作の仕組み

視覚、聴覚、味覚、触覚などの感覚情報は、電気信号として人の体に張りめぐらされた神経を通過して脳に伝達されます。一方、脳から発生する電気信号が神経を通過して手足の筋肉などに伝わり体が動きます。このように脳では神経細胞が様々な情報を処理しています。

てんかんは、脳の神経細胞が興奮し通常より強い電気信号を発生するために発作が起こる病気です。

主な症状

てんかんの症状は発作です。てんかん発作には「泡を吹いて倒れる」「ひきつけ、けいれん」だけでなく、「ボーとしていて話を聞いていないように見える」「顔や身体の一部がびくついている」「寝ぼけているように動き回る」など一見発作と考えられないような症状があります。

人によって発作の型（発作型）は様々ですが、同じ人では同じような症状の発作が繰り返し見られます。

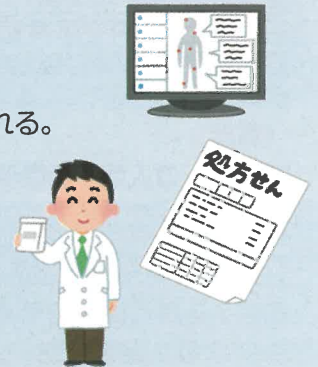
てんかんの治療は？

てんかんの治療は正しい診断が重要

てんかんの方の7～8割は、抗てんかん薬の内服治療により発作が止まります。内科治療をはじめあらゆるてんかん治療において、正しい診断に基づいて治療されないと、症状が改善されない場合があります。

正しい診断がされていない事例として、以下のようなことがあります。

- 1) てんかんであることに気づかれずに放置されたり、別の病気として治療される。
- 2) てんかんではないのにてんかんとして抗てんかん薬の内服を勧められる。
- 3) 良性てんかんであるのに、強い抗てんかん薬を多量に処方される。
- 4) 難治てんかんであるのに、十分な薬を投与されていない。



てんかんの発作は

てんかんの発作の型（発作型）は、大脳の一部から発作がはじまる部分発作とはじめから脳全体が巻き込まれる全般発作があり、部分発作、全般発作の中にさらにいくつもの発作型があります。

発作型の診断は薬の選択に関係しますので重要です。たとえば同じようにボーとする発作でも、部分てんかんにみられる複雑部分発作か、全般てんかんにみられる欠神発作かで薬は異なります。

てんかん以外の病気による症状とてんかん発作とをきちんと区別することも大切です。たとえば高齢者のてんかんでは、けいれん以外にボーとしたりするだけの発作症状も多いことから、認知症と間違われて放置されることがあります。

てんかんの治療方法は

てんかんの治療には、抗てんかん薬治療、てんかん外科治療、食事療法、ホルモン療法などがあります。一般的には、神経細胞の過剰な活動を抑え発作を起こりにくくする抗てんかん薬という薬を規則正しく内服することで治療を行います。

てんかん治療の継続

抗てんかん薬による薬物治療では、毎日決まった時間に規則正しく薬を飲み続けることが大切です。薬の治療は通常数年かかります。抗てんかん薬が眠けやふらつきなどの副作用を起こすこともありますので、薬による効果と副作用のバランスをみながら治療を続けます。

てんかんの方の中には、「注意が続かない」「ボーとしやすい」などの症状がある場合、薬の副作用を疑って薬を勝手にやめる人もいますが、その症状がてんかんそのものによるものであれば、むしろ薬を継続することが必要です。治療は患者さんと医療従事者との協働の作業です。何事も自己判断せずに、医師に相談してください。

治療においては、日々の発作や体の状態に関する患者からの報告が一番の手がかりです。脳波検査や薬の血中濃度検査、副作用の検査なども必要です。

また、発作が起こりやすくなる要因としては、精神的緊張、睡眠不足、ストレス、疲労などがあるとされており、規則正しい生活になるよう改善したり、ストレスなどの原因をなくすことが重要です。